

<p>研究課題名 担がん患者におけるがん免疫微小環境と宿主免疫応答の解析 ～免疫チェックポイント阻害薬（ニボルマブ）投与患者におけるがん抗原特異的免疫応答の解析～</p>
<p>研究責任者名 大学院医歯薬保健学研究科 分子内科学 教授 服部登</p>
<p>研究期間 2017年5月24日(倫理委員会承認後)～ 2019年3月31日</p>
<p>対象者は以下の全てを満たす患者さんです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2017年5月(倫理委員会承認後)～ 2019年3月31日の間に、組織学的に非小細胞癌の診断が得られ、ニボルマブの投与を受けた患者さん 2. E 疫-M326-12「呼吸器疾患における血液バイオマーカーの臨床的有用性に関する研究」に同意された患者さん
<p>意義・目的</p> <p>がん細胞には、がん細胞だけが出している（発現している）“腫瘍抗原”、または“がん抗原”というものの存在がわかっています。また、がん患者さんの体内で、この一部のがん抗原に対して免疫反応が起こることもわかってきました。免疫療法は、かつてはこの免疫反応全体を上げるための治療薬の開発が中心でしたが、1990年以降は、がんが発現している“がん抗原”をめぐって、がん細胞だけを傷害できる免疫反応を高めるとい治療薬の開発に目が向けられるようになりました。</p> <p>この研究では免疫反応を調節しているメカニズムを検証し、新しいバイオマーカーを確立することを目的にしています。</p>
<p>方法</p> <p>本研究は、診療録（カルテ）から得られた臨床データを利用して研究を行います。また、疫学研究 E 疫-M326-12 号「呼吸器疾患における血液バイオマーカーの臨床的有用性に関する研究」で同意を頂いて、血清を保存させて頂いている患者さんの血清を利用します。血清を用いてがん抗原に対する免疫の関係を調べます。また、臨床データとして年齢、性別、組織型を含む臨床情報、あるいは、今後診療の中で行われる治療の有効性・安全性の情報を使わせていただき、それぞれの関連を検討させていただきます。また、EGFR 遺伝子変異、通常の診療上で調べられるがん細胞の分子異常に関する情報も使わせていただき、それぞれの関連を検討させていただく予定です。個人を特定可能な情報は解析に用いません。</p>
<p>共同研究機関</p> <p>川崎医科大学、川崎医科大学総合医療センター、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 慶応義塾大学大学院医学研究科、大阪大学大学院医学系研究科、東京大学医学部附属病院 東京医科大学、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科、川崎医療福祉大学、長崎大学病院 日本赤十字社長崎原爆病院、長崎県島原病院、University of Nantes、兵庫医科大学病院 京都大学</p>
<p>個人情報の保護について</p> <p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に臨床データや試料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利</p>

益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5196

広島大学病院呼吸器内科 教授 服部 登

研究機関：広島大学